



アベノミクスとは？ 今後の行方は？

西区支部 景山正之

最近、巷では「アベノミクス」という言葉が大流行で新聞やテレビなど、メディアでは常識のように取り扱われています。しかし、アベノミクスって何？と、恥ずかしながら詳しく知らず、少々調べてみました。

アベノミクスとは、2012年12月16日に発足した第2次安倍内閣が掲げた経済政策のことで、言葉の由来は安倍総理大臣のアベとエコノミクスを合わせた造語。そして、第40代アメリカ合衆国大統領であった元ロナルド・レーガン大統領の経済政策がレーガノミクスと呼ばれたことより、それにちなんでアベノミクスと呼ばれるようになったようです。

内容は下記の3つを基本方針としており安倍氏はそれを「3本の矢」と表現しています。

1. 大胆な金融政策
2. 機動的な財政政策
3. 民間投資を喚起する成長戦略

これら3本の矢は一度に同時に放たれるのではなく、1本ずつ順番に放たれております。それぞれの個別の内容は以下の如くです。

1. バブル崩壊以降の20年間における不況の最大要因をデフレと捉え、デフレ脱却を目指すべくインフラターゲットの導入を決定。そのために、これまで独立性が重視されてきた日銀に対して、日銀法の改正も視野に入れた上で2%の物価目標を掲げるよう働きかけ、その目標が達成されるまでは無制限の量的緩和策をとることを決定しました。

2. 政府は2013年1月15日、過去2番目の規模となる13兆1千億円の補正予算案を閣議決定しました。内訳は「復興・防災対策」に3兆8千億円。「暮らしの安全・地域活性化」に3兆1千億円。「成長による富の創出(再生医療の実用化支援など)」に3兆1千億円となっています。

更に2013年5月15日には2013年度予算が成立しました。一般会計総額は92兆6115億円となっており、デフレ脱却に向けて公共事業費や中小企業振興費に重点配分する一方、地方交付税や生活保護費を削減して歳出を圧縮しています。予算執行による大規模な財政出動を進めることで景気の底上げにつなげていく戦略です。

3. 産業競争力会議に置いて7つのテーマ別会合を開き、2013年6月をめぐりに具体案をまとめるとしました。7つのテーマは以下の通りです。

1. 産業の新陳代謝の促進
2. 人材力強化・雇用制度改革
3. 立地競争力の強化
4. クリーン・経済的なエネルギー需給実現
5. 健康長寿社会の実現
6. 農業輸出拡大・競争力強化
7. 科学技術イノベーション・ITの強化

しかし、第2次安倍内閣の発足が2012年12月16日です。現在2013年5月にこの原稿を書いておりますが、それにしても最近では景気急回復のニュースを連日のように目にします。この、もの凄い勢いの景気回復はどのように展開されているのかまとめてみました。

2012年11月14日、2日後の11月16日に衆議院解散をして12月に総選挙を行うことが決まりました。それまで日本は円高・株安に苦しんでいた訳ですが、11月15日、安倍晋三氏がデフレ脱却・無制限の量的緩和策を打ち出します。この時点で株式市場は自民党の政権復帰を視野に入れて動き出します。日経平均株価と円安の動きが連動して円安・株高が進んでいきました。選挙戦に入ると円安・株高はさらに加速して「アベノミクス」という言葉が登場します。

円安になると円換算の売り上げが増えて輸出競争力が付き、為替差益が生ずるため、実際に増収増益となります。そのため、マーケットは思惑買いから先取りした相場展開となり、第2次安倍内閣の発足以前から市場が動いて経済的にプラス効果が出ました。私の場合、これらの経済効果をメディアを通して目にするうちに、何となく好景気を感じていたようです。

このように期待先行で円安・株高を生み出したアベノミクスですが、経済再生が実現すれば、税収や社会保険料収入が増えて社会保障の充実が期待できる上、2014年4月と2015年10月に予定されている消費増税により財政再建の実現の可能性が高まります。

しかし、万が一うまくいかなければどうなってしまうのでしょうか。

まず、1本目の矢：金融緩和に対する反対意

見ですが、円安が進むほど原油や小麦などの輸入品が値上がりするので、かえって生活が苦しくなるという意見があります。

次に、2本目の矢：財政政策→公共事業に対する反対意見は予算のバラマキで無駄が多い。また効果は一時的で長続きしないと言われます。

最後に3本目の矢：成長戦略ですが、好景気が無理なく長続きするためにいちばん大事と言われています。現在戦略検討中で2013年6月までにその具体案がまとまる予定です。

検討中の分野は前述の通り雇用・医療・エネルギーなどさまざまですが、TPPへの参加も含まれており、特に農業に対しては海外の安い農産物が大量に入ってくると日本の農業は大打撃を被ると言われます。医療に関しては保険制度の規制緩和により海外の民間保険が国民皆保険制度を崩壊させてしまうことに危機感が抱かれています。

アベノミクスは今後どのような方向に向かっていくのか、7月には参議院選挙もあることにより成長戦略の具体案が選挙の行方にも大きく影響するでしょう。期待と不安を抱きながら毎日の報道を見ている日々です。

(鉄工団地診療所)